



# 佐賀・宮崎・大分を視察して〔二〕

瀧川 勸 則

## は し が き

暮がちな冬の日ではあつたが十日間に亘り標記三縣を旅行する機會を得た、準備もせず突然飛出し  
て行つたことゝて各縣に割當られた日數も不足勝で事物に付詳細な研究を企圖し得ず従つて收穫も極  
めて少いが感じたまゝを書いて見たいと思ふ。又失業救済事業施行の實際を見學して其の效果の片鱗  
を伺ひ得たのでそれを附加することゝした。

## 一 佐賀縣の綱概

佐賀縣は福岡縣と長崎縣とに挟まれ、東西南北共に十八  
里、面積百五十八方里(全國中第四十二位)、人口六十九萬人

(同第四十一位)を收容せる三角形をなしてゐる、其の頂點  
は玄海灘に突出して東松浦半島となり尖端に名護屋と呼子  
とがある、この半島は東に唐津灣西に伊萬里灣を控へ良港  
に富むばかりでなく半島一帯及附近の島嶼は風光明媚の地

として知られてゐる、又壹岐、對馬を隔て、朝鮮と相對することが此の地を歴史上有名ならしめた原因である、右邊

は脊振山脈、底邊の東半は筑後川を以て福岡縣と界し、左邊は多良岳火山系を以て長崎縣と相接する、而して底邊の西半は彎曲して靜穩鏡の如き有明海となつてゐる、筑後川沿岸から多良岳山麓まで即ち本縣の南半は一望際涯なき沖積平地で筑紫平野の西半を占むる所謂佐賀平野である、佐賀市は平野のほぼ中央に位し本縣文化の中心地で東京から特急櫻を利用すれば二十三時間四十七分の距離である、東北部は山地であるが其の最高峯脊振山ですら海拔千五十五米に過ぎない、河川は筑後川を筆頭に嘉瀬川、六角川は佐賀平野を南流し、鹽田川は東流して有明海に注ぎ、松浦川と有田川とは北流し前者は唐津灣に後者は伊萬里灣に注いでゐるが何れもあまり悪性でないようだ、右の様な概況であるから路政に對する自然的コンヂションは頗る恵まれてゐると言へると思ふ。

## 二 道路と交通系

交通の要衝となるべき都邑は主として東南部から西南部の平野に散在するが獨り唐津は北部の松浦河口に位し海陸交通の要衝を占め宛も北極星の如き存在である、之に對し西南部に一群をなす伊萬里、有田、牛津、鹿島及東南部に一列に竝ぶ佐賀、神崎、鳥栖など一市六町の配置は正しく北斗七星の形をなしてゐる、而して伊萬里と鹿島及び牛津と有田とを各々直線で結べば其の交叉する所に溫泉地武雄がありそれから南十四軒の地點に嬉野溫泉がある。

國道二號線は縣最東部を北から南に通過し、國道二十五號線は鳥栖町外田代村で二號線から分岐し、西南に向ひ鳥栖、神崎、佐賀、牛津、武雄、嬉野を連絡して長崎市に通ずる、國道三十三號線は武雄に於て二十五號線から分岐し有田町を経て佐世保市に達し、特十七號國道は嬉野町に於て二十五號線に接続してゐて之等國道の總延長は三十一里、中にも二十五號線は縣内交通の大幹線を兼ねた重要道路であ

る、府縣道は延長二百四十二里、一方里當國府縣道の延長は一里七分の割合である。本縣の道路を詳細に觀察すると地形上三つの交通焦點を發見し得る。其の第一は佐賀市であつて東部道路網構成の中心である、其の第二は北部の唐津であり第三は西南部の武雄である、而して武雄は之を圍繞する伊萬里、有田、鹿島及嬉野等に自動車にて二十分乃至三十分の距離にあり、杵島炭田も間近にあつて勢力範圍頗る廣く今後尙發展の可能性がある、之を以て見れば本縣の交通は結局鼎立する生産地の中心佐賀市と開港場たる唐津と遊覽地たる武雄との三都を焦點として發達するのではあるまいか、本年度に施行されつゝある道路改良箇所配置を見ると佐賀附近十三、唐津附近八、伊萬里附近五、鹿島附近六となつてゐて、前記縣を三分せる道路網が着々改良されつゝある。尙縣外交通の幹線は、先に述べた國道の外、唐津より福岡に通ずる道路、伊萬里より長崎縣北部の平戸に通ずる道路、佐賀市より久留米市に通ずる道路などが最も重要なものと認められる、佐賀市から三瀬峠を経て

福岡市に通ずる道路は目下改良中であるが此線に自動車を自由に通じ得ることとなれば兩市間の距離は大いに短縮されることとなる。佐賀市から筑後川下流を渡り福岡縣大牟田市に通ずる捷路の設定及佐賀から住ノ江鹿島を経て長崎縣諫早に通ずる道路の改良等は今後に残された大問題である。國有鐵道は鹿兒島線、長崎線、唐津線、伊萬里線、有明線及北九州鐵道の六線があるが、この内唐津線は佐賀唐津間幹線道路との平面交叉が甚だ多く車馬交通の危険を感ずるものも二、三ヶ所に止まらない。地方鐵道及軌道は國有鐵道又は自動車に壓迫されて發達微々たるものである。

### 三 道路改良計畫

近時自動車の發達に伴ふ高速度交通の要求に適應すべき道路を築造せむとするは全國的趨勢であるが本縣に於ても夙に其の必要を認め、經費千二百六十萬圓を以て十一ヶ年計畫を樹立し昭和四年度以降着々之が實行に努めてゐるのであるが本年度に於ては政府が失業救濟事業助成の策を執

りたるに鑑み之を失業救済事業に振替施行した、縣土木費豫算の總額は八十七萬七千二百二十四圓で、歳出豫算總額の二十％に當り教育費に次ぎ第二位を占めてゐる、此の内道路橋梁改築費は六十七萬一千圓更に此内には國庫補助を受くる失業救済府縣道改良工事費四十三萬九千七十三圓を含んでゐる、七年度以後に於ても所謂十一年計畫の遂行に努むる筈であるが六年度改良箇所と七年度改良豫定箇所の配置とを比較研究すると改良範圍を漸次擴張して近代的道路を包含した道路網が追々擴大されて行くのが認められる。

縣當局の説明する處に依ると國府縣道の全體を自動車交通に好適せしむべきを理想とするけれども先改良の第一段として自動車交通の「可能」を實現し計畫の進捗に伴ひ理想の達成に努むるとのことである、而して今年年中には最初の目的を達し得ることであるから十一年計畫完成の際に於ては縣下の交通に一エポックを劃することゝなるに違ひない。凡そ道路計畫は先幹線の改良より始め漸次支線或は培養線に及ぼすべきを通常の形態とするものゝ如くで

ある、此方法は偏倚的或は集中的である、然しながら佐賀縣の如く廣大な平野を擁し農産を主とする地方、其他地形上の理由存する所に於てはこの方法に依らず、網的改良の方法を採るのが却つて效果的なように思はれる、特に失業救済事業の施行に當つて失業者が散在する場合に適切である、網的改良とは先一ヶ或は數ヶの中心地を定め之を中心として道路網を設定し交通幹線たるを否とを問はず中心に最も接近した交通不適のヶ所から改良を始め漸次遠きに及ぼし道路改良の目的を達せむとする方法である、佐賀縣の計畫は之に近い、此方法は本末を顛倒せる如き觀があるが必ずしもそうでない、郊外から市内に向つて擴築する道路が相當効果を收め市内の工事困難なる箇所の改良を促進するのと一脈相通する効果がある。

#### 四 失業者及準失業者の救済

縣内失業者の總數は千五百五十九人で一市十町五十五村に分布してゐる、失業者の全然存せないのでは六十五町村で

準失業者（農閑者を主とす）の存せないので二十五町村であるが、これは經常費を以て施行しつゝある砂利の採取に採用されてゐる失業者三百人を算入せない數字であるから之を算入した場合は自ら相違を生ずる、何れにしても他の府縣に比し失業者は非常に尠いことは確である、現に施行中の失業救済事業は前述した豫算を以て、國庫補助に關係あるもの二十三ヶ所、然らざるもの國道二ヶ所府縣道七ヶ所であるが、以下述ぶる處は國庫補助に關係あるものに關してである。事業は今や準備期を過ぎて實行期にはいつてゐる既に竣功した所も一箇所あつたが事業全體から見ると約二十％位の出來形（十一月三十一日現在）を示してゐる既に使用した労働者延人員は二萬四千人一日平均九〇九人であるが此内失業者は二十三％、準失業者は五十一％、熟練労働者は二十六％の割合であるから先事業の恩典に浴した者は總數の七十四％即ち延一萬七千七百人である。労働賃金は男七十錢女五十錢を標準としてゐるがこれは炭坑労働者などに比し相當良いので炭坑労働者の多數が、失業救

濟事業に就勞を希望して當局を當惑させたといふ珍談もあつて、當局は事業の本旨を説明して之等労働者を炭坑に歸らしむべく骨を折つたとのことであるが賃金の決定は餘程慎重にやらぬと思はぬところに飛沫が加ふる、然し本事業はそれだけ効果的で失業者は勿論一般地方民に歡迎されてゐるものと認められる、農業労働者の使用率が比較的高いのは、各工事箇所にも附屬設定した労働者使用区内の純失業者が少數なため失業者を使用するだけでは到底工事の圓滿な進捗を期し難き爲であつて決して失業者の存在を無視した爲ではない、失業者にして就勞希望者は一世帯に付一人は必ず就勞せしめたとのことである一日平均使用人員の少いのは工事未着手のもの六ヶ所ある爲である、又農閑者は生活困難なものから順次就勞せしめたとのことであるが、農閑者の就勞を絶對的に拒絶しなかつた結果本事業に對する世評を大いに高めた觀がある、又本縣に於ては工事の總てを地元町村長に請負はしめて施行する慣習があり地元町村に於ては工費の一部を負擔するか用地を寄附することに

なつてゐる、此の地元町村長の請負制度は、失業者の認定及其の就勞の按配と工事執行との連絡を極めて圓滿にやつて行けるようである、殊に營利を目的とせないので、失業者使用條件の履行が完全である、又工事を請負つた之等町村長の中には路政に關し極めて熱心家が居て極力活動しつゝある、現に佐賀郡松梅村長や、東松浦郡名護屋村長の如きは路政に關し常に當局を援助し功績顯著なりとのことであるが誠に欣快に堪へぬ話である。

本工事は起債認可の遅延に伴ひ豫定より遅れてゐるようである殊に工事未着手のものに付ては早急に善處してもらいたいと思ふ、年度が接迫すると勢進捗を急ぎ爲に機械力を利用することが多くなり竟には豫定の失業者を救済し得ず事業の目的を根底より覆すことゝなりはせぬか、又年度内に竣功せないといふが如きことになると後年度に影響を及ぼすのみならず延いては土木關係官廳の信用の低落或は權威の失墜といふが如き結果を生ずることなきを保し難い。

## 五 佐賀市附近

佐賀市は人口四萬六千人縣政の中心で又主要物産たる米の集散地である、先縣廳を訪問して一般的説明を願ふことゝした、七年度に行ふ市内國道の改良計畫に付ても概要をきいた、郊外には十數ヶ所の工事が行はれて居るのでその主要なるものを視察する、市内は道路幅員が一般に狹隘だが、取立てゝ危険を感じるようなところはなかつた。郊外に出て先三瀬佐賀線を視察する此の道路は前にも述べた福岡市への近道である、市から北へ約八軒の地點にある川上は郊外第一の景勝地である道路は坦々たる平野を殆んど直線的に走つてゐる幅員も相當廣く單線軌道が併用されてはゐるが路面も良好で中々立派なものだ松梅村の工事箇所は既に七十%の出來形を示してゐる、向川上川に沿つて十軒溯れば古湯温泉があるが、時間がないので車を返す、國道二十五號線中巨勢村神崎町間も直線八軒に亘る模範的道路であるが七年度改修豫定の市内國道はその連続で

ある。冬期佐賀平野を旅行する者は何人も氣付くであらうが、一望際涯なき大平野に至るところ刈取られた稻が積まれたまゝ風雨に曝されてゐる、その或ものは水に浸され

又時には霜雪に打たるゝこともあるだらう、此の地方の農民は自己が粒々辛苦の結晶をこうして寒天に曝してをくのである。そしてこれは農民が如何にも衣食に窮してゐないといふことを近隣に誇る爲の祖先傳來の惡習である、この爲米の品質を損することは非常なものだそうだ、爲に年産額百二十萬石價額二千萬圓、内六十萬石は縣外に移出せられ、米作の豊凶竝に其の價額の騰落は農村濟經のみならず一般經濟界に至大な影響を及ぼすと謂はれてゐる佐賀米も時にその品質を疑はるゝこともあるとのことだ、縣は米穀検査所を設けて陋習の改革に努めつゝあるとのことだが此の農民氣質は中々改まらぬらしい。道路用地買収に當つてもこの稻積を放置したまゝ作物收穫未濟などと稱して熱心地元町村長の相談に應ぜぬ者も時にはあるらしいが誠こまかつた習慣である。佐賀市及附近には名勝舊跡も極め

て多いのであるが、時間の都合で探勝することを得なかつたのは頗る遺憾であつた。

## 六 佐賀市より唐津へ

夜來の雪は漸く暗れたが、此地方稀に見る大雪だそうだ、自動車は唐津に向つて猛烈に走つてゐるが、雪の爲に路面の良否は判断し兼ねる。北に進むに従ひ止んだと思つた雪がまだちらほら降つて來た、牛津町内二十五號國道は幅員甚だ狹隘で然も交通量相當に多く改良の必要を痛感する、唐津武雄線東松浦郡相知村地内の工事場には紛々たる雪をものともせず勞働者が營々として勞働してゐたのには尠からず驚かされて感激を禁じ得なかつた。佐賀と唐津とを連絡する道路は沿線に所謂唐津炭田があつて相知、岩屋等十數ヶの炭坑があり産業上交通上二十五號國道に次ぐ重要道路であるが、之に併行する鐵道との平面交叉が多いことは前述べた通りである。出炭額は年百二十五萬噸價額八百三十九萬圓に達し、米穀に次ぐ重要物産である。

唐津町は人口一萬八千人松浦川の河口に望む開港場で石炭及海産物の輸出が盛である、のみならず附近の風光甚だ明媚で史蹟と傳説とに富む、唐津なる名稱も唐に渡る港といふ意味からきたのだと言はれてゐる。河口左岸に高さ三十九米の丘がある、小笠原氏の居舞鶴城跡である、頂上に登ると北面一帯は洋々たる玄海灘で大島、高島、鳥島など指呼の内に入り、右顧すれば名勝虹の松原は六籽の長き弧状を畫き玄海の波浪濤々として白砂を練ふ様は筆舌の及ぶ所ではない、神功皇后が征韓の際寶鏡を捧じて戰勝を禱られたといふ鏡山は山容極めて艶麗だ、此の山の別名を領巾振山といふが、これは宣化天皇の御宇大伴狹手彦が新羅征伐の勅を奉じて松浦瀉を船出したとき戀人佐用姫が惜別の情止み難くこの山に登つて領巾を振つたといふ傳説から來てゐるのである、此の後の傳説は不如歸の浪子と武雄のそれと大いに似てゐる、物語の結末に於ても佐用姫と浪子といふ二人の佳人は夫の凱旋をまたずしてみまかつたことまでが一致してゐるのである、然し之等はみな武勇と情愛と

を兼ねた大和民族の特性を表したロマンスである、滿洲問題のやかましい折柄圖らずも此の地を訪ねて一種の感懷を惹き起した、日本の滿洲、朝鮮に對する關係は遠く神功皇后や大伴狹手彦の時代に起り、秀吉を經日清日露の兩戰役を経て二千年後の今日ようやく最高潮に達したのではあるまいか、南方松浦川には松浦橋が五百五十一米の巨體を横たへてゐる。此の橋は松浦川に依つて二分された唐津町今唐津と唐津町滿島とを連絡する唯一の交通路であるのに幅員四米に過ぎず交通事故頻發するため殺人橋の名があつたが、本年度救濟事業に依つて幅員を六米三六に擴張したので大いに交通上の面目を改めた。凡そ此附近程景勝に富み探るべきものゝ多いところははないが、一日半で佐賀縣全體の視察を終らうとする私にそのいとまのあらう筈がない。

## 七 唐津より武雄へ

唐津武雄間も交通上重要な路線である今年度救濟事業に於て改良されつゝある箇所も二、三あるが工事中の爲直線



的に走ることが出来ない、工事箇所を視察しては引返して迂回せねばならぬ、しかし時間がないので車は大いにスピードをかけて居るが幸なことに道路が主として平地を走つて居るのでさして危険を感じる箇所もなく又車の天井に頭を打つけるようなこともなかつたので路面もさして悪くはないらしい。

武雄は嬉野と共に佐賀縣の二大温泉場として知られてゐる、町内はこゝも同様幅員があまり廣くなく交通至便と言ひ難いが、外部との交通は中々開けてゐる國道の分岐點であることも前に述べたとほりである、此の温泉はかなり古い歴史をもつてゐる、傳説に依ると神功皇后が劍の柄で岩を衝き給ひしとき滾々として湧出したのだと云はれてゐる、内湯はなく浴客に稍不便の感を與へぬでもないが設備も相當整ひ附近には宏壯な旅館軒を連ねて四季殷盛を極むる、此温泉場は内湯を許さず温泉の利益を個人に獨占せしめぬことが結局町全體の繁榮を齎す所以で、此點愛媛縣の道後温泉と同一經營法である、夕刻此町に車をすて、佐賀

縣の視察を終つた轍の跡を顧れば正味二十時間に充たないが縣内主要な道路と都邑とは一、二を殘すのみである、何れの地方を視察しても等しく感ずるのは、市街地の道路が幅員狹隘で改良の必要に迫られてゐることである、本縣に於ても又同様であつた、市街道路は改修極めて困難で一朝一夕に効果を收め得ないには違ひないが本縣は人情厚く且つ教育程度の割合に高いところであるから、佐賀市内國道の改良計畫樹立を端緒として市街地道路の改良に努力してもraithたい、さすれば佐賀も唐津も武雄も小唄や音頭の上ばかりでなく實際上にも大公園たる感じを出し得る。元來本縣民は交通に對し相當な理解をもつて居ると思ふ、甚だ卑近な例ではあるが通行中の車馬は交通法則に適合してゐて交通信號や號笛等に對し極めて好意的に自己の管理する交通物體を處理してゐる、私は或地方に旅行した時緩速交通物體が高速交通物體に對し著しく反感を持つてゐるのを痛感した事があるが、佐賀縣に於ては全然之と反對の感じを得て本縣の交通は他に優先發達の微ありと認めた。(未完)